

カラーピーマン周年供給

小売部門で地産地消も推進

宮崎県新富町の青果流通業者である広瀬（広瀬邦彦社長）では、特産カラーピーマンを周年供給している。JA西都をはじめとした地元産（12月～翌6月）を中心に、6月後半～11月にかけては高千穂町の農家や大分県のJA玖珠九重といった、比較的高い標高に位置する産地と連携し、周年リレーを実現。さらに近年は小売部門も新設し、小ロットの農家の販売を支えるとともに、取引のある県外業者の特産品の売れ行きを探るアンテナショップとしても機能している。

に流通直送している。ピーマン、キュウリをはじめトマトなど。最近では野菜

品目はカラーピーマン、め、千切り大根、カボチャ、

大分県産

等級	階	級
	L	M
		レッド



宮崎産と大分産のリレーで3色詰め合わせのカラーピーマンを周年供給（上）JA西都と連携し特産極早生ミカンも供給

Aの極早生ミカンも取り扱う。根域制限マルチ栽培と畑かんがい用水を用いた点滴かん水を組み合わせて栽培し、さらにJAの非破壊選果機を用いて全量選果した「南国の陽蜜（ひみつ）」である。4月～7月にはマングローも強化している。

「新富レンコン」など特産品の販路開拓も

一方、全国流通に加え、地域流通にも着手。以前から1回、本社の駐車場で地場特産品などを地域住民に販売。その発展形として

昨年8月には、町内の食品スーパーの駐車場に直売所「とれたて市場 やお八」をオープンさせた。

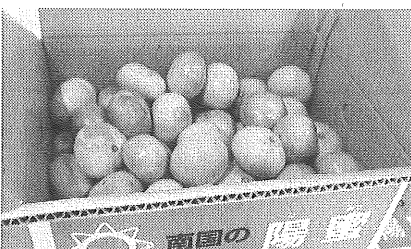
第一のコンセプトは、地元農家の特産品や加工品の直売。中でも地元の人気を集めるのは、赤紫色で果肉が甘くやわらかく焼きナスに向く地域伝統野菜



直売所「やお八」でも人気の佐土原ナス（手前）

の「佐土原ナス」や、形状は非常に細長く、糸を引くほど粘質で煮物に向く「新富レンコン」など。外観の問題や生産量が少ないことで広域流通には向かないが、広瀬社長は「少しでも生産活性化につながれば」としている。

また、果実を中心とした県外産は同社が宮崎市中心卸売市場で品揃えする。意



同社は1984年に広瀬商店として創業。2009年9月にはコールドチェーンを完備した新社屋が完成。それを機に、名称も広瀬に変更した。現在の年商は13億円。

中心的な業務は、県内のJAと連携し、パッケージして、JAに代わって全国

業務を受託するほか、資材業者も交えた三者連携で、東北などのJAが直接対応しにくいエリアの顧客に販売。JAのパッケージとは別に企画したオリジナルパッケージにより、鮮度のよい商品を「SUN直便」として、JAに代わって全国